



教師の非言語行動が学習者に与える影響：教科による表出傾向と学習者及び教師による認識の実態

石川，凜

(Citation)

課題研究優秀ポスター, 2026:26

(Issue Date)

2026

(Resource Type)

conference poster

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100505005>



教師の非言語行動が学習者に与える影響

—教科による表出傾向と学習者及び教師による認識の実態—

キーワード：非言語行動、教育心理学、教師行動 神戸大学附属中等教育学校 6104 石川 凜

研究背景/目的

教師の伝え方の重要性

単に内容を説明するだけではなく伝え方も重要なのでは？

非言語行動の活用

- 教師は授業中に言葉だけでなく、**視線や身振りなどの非言語行動**を用いる
- 非言語行動は生徒の理解度[1]や教師への印象[2]、教室の雰囲気[3]など多岐に渡って影響を及ぼす

〈目的〉

- ・教科ごとの非言語行動の特徴の調査（実態）
- ・非言語行動が生徒に与える影響の調査（関連性）
- ・非言語行動に対する生徒の認識と教師の認識の共通点及び相違点の調査（ギャップ）

RQ

RQ1：授業中の教師の非言語行動は、教科によって生徒にどう認識されているか？

RQ2：非言語行動は生徒の「学習意欲」や「授業理解」にどの程度影響を与えているか？

RQ3：非言語行動に対する生徒の認識と教師の意図にどのような共通点や相違点があるか？

生徒の認識（アンケート調査）

〈調査方法〉

本校3~6年生171名を対象として、Googleフォームを用いてアンケート調査を実施した

◆教科別の各非言語行動が生徒に認識される度合い

非言語行動の種類	科目					
	国語		数学		英語	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
よく目を合わせて話す	3.029	0.904	2.629	0.893	3.606	0.800
身振り手振りをよく使う	2.935	0.943	2.494	0.990	3.329	0.933
身体が生徒側を向いている	3.341	0.883	2.900	0.883	3.553	0.841
声に抑揚がある	3.106	0.997	2.441	0.971	3.541	0.813

注）評定は4件法（4＝とても当てはまる、1＝全く当てはまらない）とする。

4項目全てにおいて教科ごとに有意差*があり

英語＞国語＞数学

の順に生徒に非言語行動が多く認識されていた

*フリードマン検定及びWilcoxon符号付き順位検定による

→授業スタイル（板書の多さなど）や授業の目的の違いによる影響が考えられる

◆生徒の考える授業理解/学習意欲に影響のある非言語行動

授業理解		学習意欲	
影響度	非言語行動	影響度	非言語行動
低度	視線	低度	視線
	身振り手振り		身振り手振り
中度	身体の向き	中度	身体の向き
	声の抑揚		声の抑揚
高度	声の聞きとりやすさ	高度	声の聞きとりやすさ

◆自由記述の分析

〈学習意欲の向上につながる非言語行動について〉

- ・生徒の方を向いて話す
- ・視線を合わせる
- ・しゃべりかける

→ 生徒への関心を示す行動

- ・笑顔
- ・明るい表情

→ 教師への親しみやすさ

- ・教師の熱意の伝わる行動
- ・楽しそうな姿

→ 楽しい雰囲気や熱意の伝播

〈生徒にマイナスの影響があると感じる非言語行動〉

- ・生徒の方を見ない
- ・資料や黒板ばかりを見る

→ 生徒への無関心

- ・立ち止まる
- ・ノートをじっと見る
- ・無表情

→ プレッシャー、緊張感

- ・聞きづらい声（小さく抑揚がない）

→ 理解の障害

生徒のニーズ

- ・生徒への関心の表出
- ・教師への親しみやすさ
- ・単純な理解のしやすさ
- ・楽しそうな雰囲気（安心感）

教師へのインタビュー調査

〈調査方法〉

本校国語科、数学科、英語科の教員それぞれ1名ずつにインタビュー調査を実施した

◆主な非言語行動とその使用目的

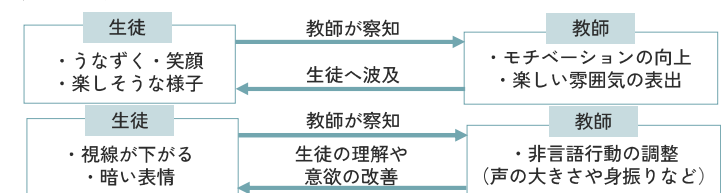
非言語行動	使用目的
視線	生徒の理解状況や授業への参加度の把握
身振り手振り	生徒の注意をひく、説明を理解しやすくする
身体の向き	生徒の様子を把握する
声の抑揚や大きさ	重要事項の強調や注意喚起、内容理解の補助

→ 非言語行動が**評価・管理**の機能や**生徒の理解の手助け**を担うと捉えられている

◆被験者ごとの特徴的な点

国語科教員A	机間巡視を意識的に用いている →小集団やペアで行うグループワーク時に行い、生徒の理解度の把握等を行い適度な介入を行う
数学科教員B	身振り手振りを意識的に用いている →数学は他教科と比較して説明的要素が強く理解の補助を担う身振り手振りが重要なのでは
英語科教員C	声の抑揚や速さ、間などを強く意識している →チャンクを意識した間など、声の工夫を母語でない言語を理解させるための重要な要素として捉えている

◆生徒の非言語行動が教師に与える影響



→ 生徒の非言語行動が教師の授業運営や感情状態に影響を与えている可能性がある

考察/まとめ

◆教師側の意識

主に「理解の促進」や「生徒の状況の把握」といった認知的・機能的な側面を重視している

◆生徒の認識

教師の非言語行動により理解を深めるだけでなく「自分への関心」や「熱意」を感じ取り、心理的な安心感や意欲向上に繋げている

教師の振る舞いは生徒への重要な「メッセージ」となる

教師は自身の行動が持つ「心理的影響力」を客観的に認識し、戦略的に活用することで、より安心感のある学びの場を構築できると考えられる

[1] 與儀峰奈子「Gestures in Classroom Discourses : First Grade Safety Rule Lesson」, 琉球大学 教育学部紀要(2001).

[2] 大野浩亨・天根哲治「教授場面における教師の視線行動が生徒による教師態度の認知に及ぼす影響」, 日本教育心理学会第28回総会発表論文集(1986).

[3] 益子行弘・斎藤美穂「教師の表情とクラス雰囲気との関連性の検討」, 日本感性工学会論 文誌(2012).